

話題がいっぱい /
なかゆくい

市内各地で行われたイベントや、
まちの話題をお届けします。
ここで“なかゆくい”しませんか。
(なかゆくい=ひと休み)



市ホームページ「うらそえボックス」
にも市内のできごとを紹介しています。



11/1 まなびのフェスタ2025開催!

まちづくり生涯学習・まちづくり協働の普及・啓発を目的として「市民協働とまなびのフェスタ浦添2025」がアイム・ユニバースでだこホールで開催されました。

大ホールでは、市教育委員会主催の「放課後子どもフェスタ・公民館フェスタ」が開催され、出演者たちが日ごろの活動の成果を存分に発揮しました。ただこ広場では、「学童保育まつり」と「ニュースポーツ体験会」が同時に開催され、会場には参加者の笑顔が溢れました。

このほか、中学生による平和交流事業の報告、外国の文化や遊びを体験するイベント、市民団体による講座・講話などが行われ、盛りだくさんの内容となりました。



10/25 ものづくりの楽しさと特産品について学ぶ

浦添市養蚕絹織物施設サン・シルクで体験フェスティバルが行われました。体験コーナーでは、カイコの繭を使っての「ブローチ」や「繭人形づくり」、真綿を使った「うちわづくり」が人気でした。他にも「カイコとのふれあい」や「糸挽きコーナー」などもありました。

体験をはしごする参加者も多く、参加者からは「夢中になれた!楽しかった!」や「学校でもカイコを育てたから来てみたかった」、「養蚕や絹織物のことを学べて、施設のイベントを知れてよかった」と満足した様子で大盛況でした。

サン・シルクの1階ショップでは、うらそえ織商品や島桑商品を販売しています。



11/4 第63号輝くてだこ市民賞

今年の夏、第107回全国高等学校野球選手権大会で見事優勝を果たした、仲西中学校出身で沖縄尚学高等学校3年の比嘉大登さん、2年の末吉良丞さんの2人に第63号輝くてだこ市民賞が贈られました。浦添出身の2人に松本市長は「沖縄県民にとっても素晴らしい夏でした。本当におめでとうございます」と喜びを伝えました。

比嘉さんは「沖縄県民全員で勝ち取った優勝。たくさんのご声援ありがとうございました」、末吉さんは「優勝を成し遂げたのも皆さんの応援のお陰。これからも応援されるチームづくりをしていきたい」と感謝と意気込みを話しました。授賞式の前には市役所ロビーで受賞セレモニーが行われ、多くの市民や職員に歓迎されました。



11/1 発掘現場から見える浦添の歴史

国指定史跡「浦添城跡」で発掘調査現場見学会が開催され、県内各地から91人が参加しました。

7月から行ってきた今年度の発掘調査で、14世紀後半頃に造られたと考えられる浦添グスクの城壁が発掘されました。参加者は、発見された城壁の石積を間近で見ながら、説明に熱心に耳を傾け、かつての浦添グスクの城壁の姿に想いを馳せていました。参加した又吉さんご夫妻は「グスクに来ると毎回感動します。砲弾の跡があり、戦争の痕跡が残っている遺跡というのも貴重。浦添グスクは浦添市のシンボルとしてとても誇らしいです」と話しました。今後は発掘調査の成果をもとに、城壁の復元に向けて整備を進めていく予定です。



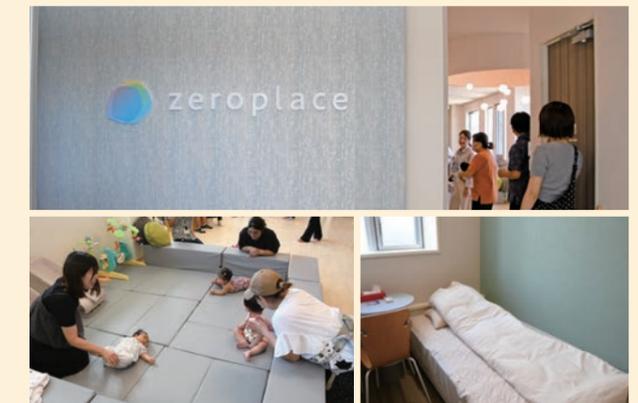
10/31 沖縄移民の歴史を学び親睦を深める

沖縄移民の歴史を学んでもらい国際理解促進につなげることを目的に、本市南米研修生のバレリアさん、フェルナンダさんが陽明高校の出前講座に参加しました。2人は、自身の出身国や先祖の移民について日本語での発表と現在習得中の三線を披露し、クイズやうちなーぐちかるたで生徒と親睦を深めました。講座を通して「今回の交流が、私たちにとっても生徒の皆さんの今後の人生においてもウチナーンチュの文化や人々との深いつながりになっていくことを心から願っている」と生徒へ伝えました。生徒を代表して、宇座留音さんが「移民された方々にはたくさんの苦労があったことを知り悲しいが、それぞれの国で沖縄の伝統文化が継承されていることを嬉しく思います。いっぺーにふえーでーびたん」とお礼を述べました。



10/16 教室閉校に伴いピアノ寄贈

市内で30年以上ピアノ教室をされてきた上里和子さんから、教室閉校に伴い長年使用されていたピアノ一台を寄贈いただきました。寄贈されたピアノは、上里さんがピアノ教室を開校された時から使われていたYAMAHAC3というグランドピアノで、世界中の家庭や学校でも使用され数多くのピアニストを育てている人気のシリーズとなっています。寄贈にあたり上里さんは「丁寧に扱ってきた分、状態が良いのでたくさんの方に勉強に使ってほしい」と話しました。松本市長は「これからも大切に使用させていただきます。ありがとうございます」と感謝を伝えました。現在だこホール練習室1では、既存のピアノと合わせて2台利用することができます。



10/3 ひとりでも多くの人に産後ケアを

産後ケア施設「zeroplace」が当山に拠点を移設し、新拠点のお披露目会が行われました。これまでの予約が取れない状況を改善するため、年間の受け入れ想定件数を1000件から1500件以上へ拡大し、新たに病児保育「よりそい(運営:Dr.coming)」も併設されました。代表の島袋綾香さんは「もっと利用したい、という声が多い中で念願の移転拡大となりました。今後も一人でも多くのママたちが、利用したいときに利用できる産後ケア施設を目指して頑張ります」と話しました。この日利用した宮城飛鳥さんは「育児中は自分を後回しにしているの、ここを利用して自分のことにも手がかけられたら育児も楽しくなると思います」と期待を寄せました。